

令和3年度学校運営連絡協議会の記録

1 組織

- (1) 都立農産高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(教務主任兼務)=事務局長、他分掌主任等4名 計5名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（生活指導主任）、主任教諭（進路指導主任）、主任教諭（教務主任、農務主任兼務）、主任養護教諭、教諭（担任連絡会代表） 計8名
- (4) 協議委員の構成
近隣中学校副校長、管轄警察署署員、管轄消防署出張所長、管轄ハローワーク課長、近隣消防団員、近隣農業協同組合代表、保護者代表（PTA会長） 計7名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年11月22日（月）（郵送による開催） 内部委員8名、協議委員6名
本校の現状と課題等、農産祭の活動報告、令和3年度学校評価アンケート
 - 第2回 令和4年2月14日（月）（郵送による開催） 内部委員8名、協議委員6名
学校評価の結果報告、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年11月22日（月）（郵送による開催） 内部委員8名、協議委員6名
・今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時間の検討
 - 第2回 令和4年2月14日（月）（郵送による開催） 内部委員8名、協議委員6名
・集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・2月 全校生徒 対象：75人 回答：70人 回答率：93.3%
 - ・2月 保護者全員 対象：75人 回答：29人 回収率：38.7%
 - ・2月 地域・住民 回答：0人
 - ・2月 教職員 対象：11人 回収：11人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワークバランスの推進など。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・昨年度と比較して、多くの質問項目で昨年度より平均値の低下がみられた。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、長期間にわたる臨時休校、学校行事の中止による保護者の来校機会の減少の影響がみられたと考えられる。
 - ・少数の否定的な意見に対しても参考資料とする。
 - ・「入学してよかった。」の質問項目について、生徒及び保護者において、継続して、高い評価を得ている。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ・オンライン学習の推進を図っており、オンライン学習に不慣れな生徒が見受けられる。今後は、授業の一形式としてのオンライン学習をより推進し、生徒にとって効果的な学習を実践する。
 - ・教員も全般的に肯定的に受けとめている。今後も継続して学校経営計画の実現に向け、丁寧な説明をし、組織的に教育活動に当たる必要がある。
 - ・本年度、SNSによる情報発信の充実を図っており、来年度、一層、学校からの積極的な情報発信に取り組む。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本校の個に応じた指導について、地域及び保護者から肯定的に捉えられていることが確認できた機会となるとともに、地域連携をより推進する機会ともなった。
- ・SNSの充実等、学校経営計画の推進に取り組む中で、本協議会をPDCAサイクルに位置付けることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校からの情報発信の充実について、新型コロナウイルス感染拡大防止策の観点からも大切であり、次年度はより改善に取り組む。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止策をより推進しながら、生徒にとって効果的な教育活動の実践に取り組む。

(2) 学習指導

- ・個に応じた指導を継続するとともに、基本的・基礎的学力の定着を図り、新学習指導要領の実施に向けた移行措置を行う。

(3) 特別活動

- ・多くの行事が中止となったり、内容変更となったりしている中で、現状を前向きに捉え、ICTの活用を促進するなど、行事の実施方法をより工夫する。

(4) 生活指導

- ・生徒会活動、部活動での高い肯定的評価をふまえ、生徒のやる気をうまく生かせるように生徒自らが生徒会活動や農業クラブ活動、HR活動・部活動等を活性化させていけるように指導・支援する。

(5) 進路指導

- ・進路未定の生徒へのアプローチを全教員で実践できるようにしていき、第1志望の進路実現率の向上をめざし、キャリア教育の充実を組織的・継続的に進めていく

(6) 健康・安全

- ・ゴミの持ち帰りは着しつつあるが、全日制学級担任との連携と改善が必要である。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7						

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

- ・今後も協議委員の意見を活用し、信頼される開かれた学校づくりを進める。
- ・防災訓練、避難所開設等について、地域と連携して実施することを検討する。
- ・農業教育の拠点の一つとして、地域産業及び中学校との連携強化の方法を検討する。
- ・専門学科の高等学校として、ハローワークと連携して就職指導を実施する。
- ・交通安全、薬物防止等の生徒の安全について、警察署と連携する。